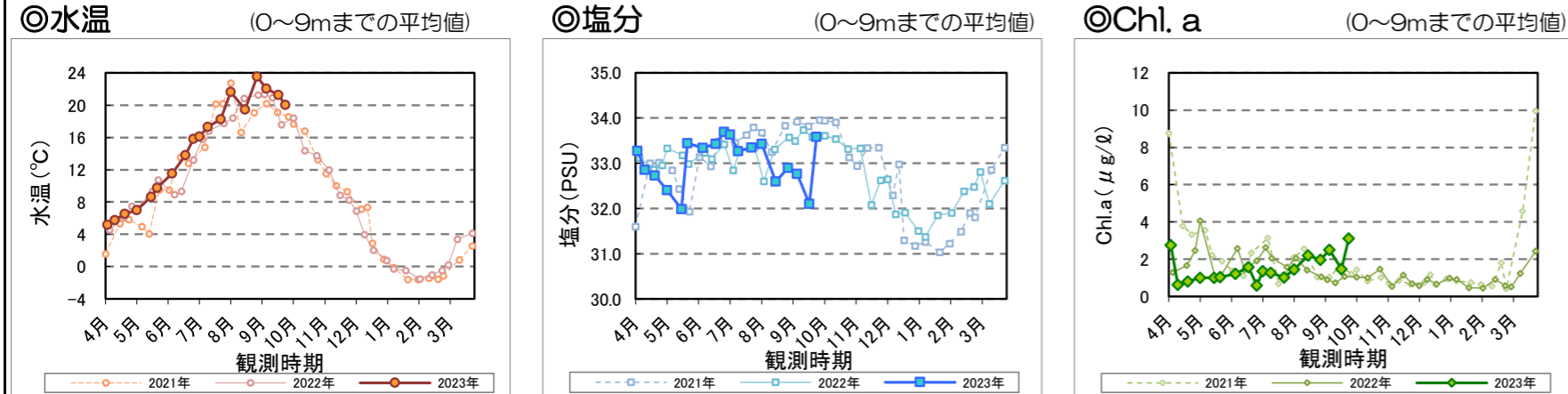
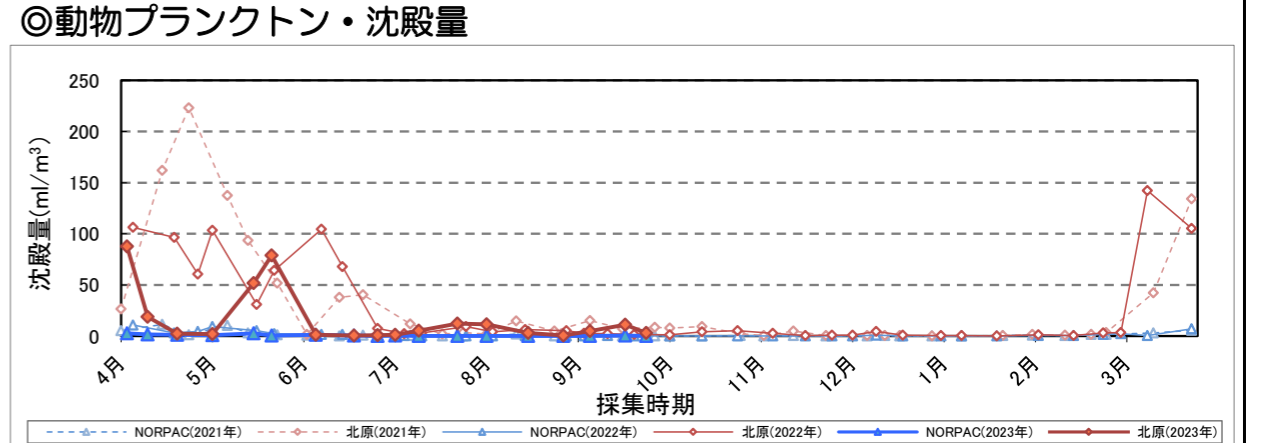


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2023年9月)

海洋環境データ



動物プランクトンデータ



概要

Table with 3 columns for dates: 9月7日, 9月19日, 9月26日. Rows include: 平均水温 (°C), 平均塩分 (PSU), 平均Chl.a (µg/l), 沈殿量 (ml/m³), 主な出現種 (listing species like Acartia steueri, Pseudoeudae tergestina, etc.), and 備考.

出現量の多かった種類

Grid of images and descriptions for various plankton species including Acartia steueri, Copepoda (nauplius), Centropages abdominalis, Spionidae (larva), Paracalanus parvus, Podon polyphemoides, Oithona similis, and Penilia avirostris.

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”はサンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである[+]出現、[+]やや多い、[+]多い、[+]かなり多い、[+]極めて多い。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆)冷水性種、(◆)暖水性種、(◆)汽水性種。

※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)、腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献：

List of scientific references including: ①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説, ②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑, ③岩国市立ミクロ生物館 監修 (2011) 日本の海産プランクトン図鑑, etc.